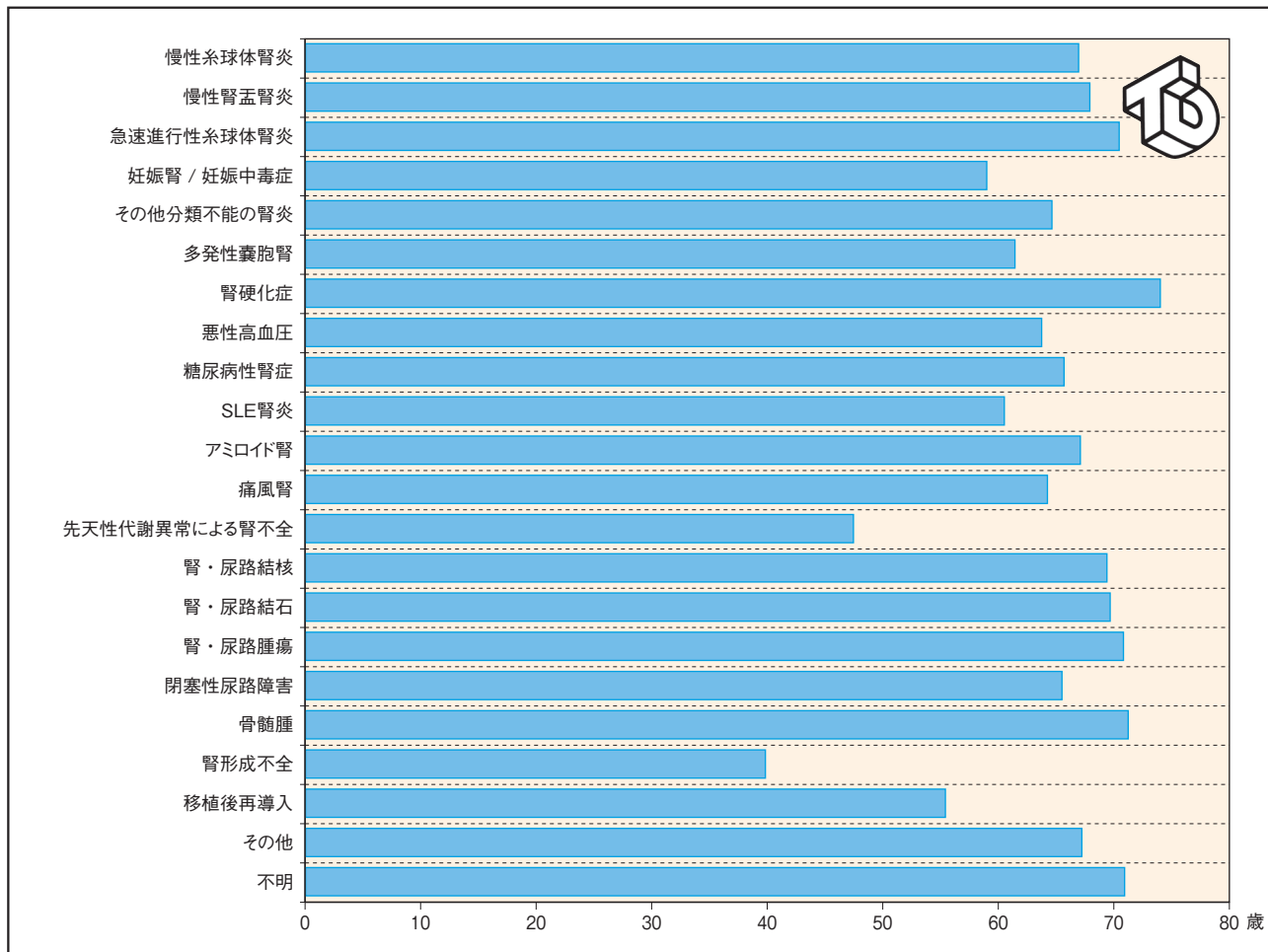


### 3) 導入患者の現状

#### (2) 導入患者の原疾患と平均年齢 (図表10)



原疾患	患者数 (%)	平均年齢	標準偏差
慢性糸球体腎炎	8,108 (22.0)	66.91	14.51
慢性腎盂腎炎	261 (0.7)	67.88	13.99
急速進行性糸球体腎炎	459 (1.2)	70.42	12.95
妊娠腎/妊娠中毒症	46 (0.1)	58.96	13.84
その他分類不能の腎炎	173 (0.5)	64.60	17.89
多発性嚢胞腎	853 (2.3)	61.40	12.43
腎硬化症	3,936 (10.7)	73.98	11.36
悪性高血圧	288 (0.8)	63.71	16.80
糖尿病性腎症	16,414 (44.5)	65.65	11.66
SLE腎炎	271 (0.7)	60.48	15.98
アミロイド腎	141 (0.4)	67.06	11.78
痛風腎	86 (0.2)	64.21	13.03
先天性代謝異常による腎不全	24 (0.1)	47.42	20.35

原疾患	患者数 (%)	平均年齢	標準偏差
腎・尿路結核	14 (0.0)	69.36	10.42
腎・尿路結石	61 (0.2)	69.64	10.84
腎・尿路腫瘍	155 (0.4)	70.79	12.64
閉塞性尿路障害	94 (0.3)	65.47	17.67
骨髄腫	138 (0.4)	71.20	10.26
腎形成不全	53 (0.1)	39.80	28.43
移植後再導入	186 (0.5)	55.38	16.16
その他	1,218 (3.3)	67.19	15.98
不明	3,929 (10.6)	70.89	13.24
合計	36,908 (100.0)	67.29	13.30
記載なし	209	70.72	12.35
総計	37,117	67.31	13.30

患者調査による集計

数値右の括弧内は列方向の合計に対する%です。

#### 解説

透析に導入された患者の原疾患の第一位は糖尿病性腎症で44.5% (前年より1.3%増加)、第二位が慢性糸球体腎炎で22.0% (1.0%減)、不明が10.6% (不変)、腎硬化症が10.7% (0.2%増加)であった。2008年末の調査で初めて減少が観察された糖尿病性腎症の割合は再度増加した。また、腎硬化症は着実に増加し、慢性糸球体腎炎は減少傾向を示した。

導入時の平均年齢は、糖尿病性腎症で65.7歳 (前年より0.1歳増加)、慢性糸球体腎炎で66.9歳 (不変)であった。腎硬化症の平均年齢は74.0歳で前年と不変であった。比較的若年で導入されているのは、腎形成不全、先天性代謝異常による腎不全などの先天異常によるものであった。移植後再導入例は55.4歳であった。